

呉羽総合病院

ISO 9001 認証取得

Your smile
reaches all

“すべてのひとを、笑顔にするために”

連携だより

— 2014 春夏号 —



医療連携システムの意義と有用性



消化器内科部長
今野 保敏

安心で安全な 医療を効率的に

日本の国民皆保険は、世界に誇れる優れた制度であります。また、患者が受診したい医療機関を自由に選べる（フリーアクセス）のも大きな特徴です。しかし、その結果、複数の医療機関への過度の重複受診、検査、薬物療法などが実施され、本来必要ではない負担や無駄な医療費が発生しているのも事実です。

医療資源（人的、財政的）は、無尽蔵ではありません。政府は消費増税などによって、医療と福祉関連予算の確保に努めておりますが、突出した少子超高齢化社会にて税金と保険料で支えられている世界に冠たる国民皆保険制度を今後も継続してゆくためには、無駄な医療費を極力削減する対策が重要であります。

医療連携システムは、患者さんへの医療サービスの向上と、医療費の節減に有効と考えています。個々の患者さんの病態を考慮し、適正かつ妥当で質の高い医療サービスを提供し、待ち時間の短縮、高度先進医療機器の有効利用にも貢献できます。個々の医療機関の役割分担を把握、認識し、医療連携は患者さんを病院と診療所間で相互に紹介しあう仕組みであり、安心で安全な医療を効率的に達成するために有用なシステムです。

日本には大病院～専門医志向がありますが、まずは通院しやすい近くの診療所や病院にかかりつけ医（患者さんのことを最も熟知している医師）を確保することが大切です。病診連携システムを利用すれば、いざという時に確実に専門医療機関での診察、検査、手術など、先進医療を受けることが可能であります。

いわき地区は東日本大震災、原発事故の前から、すでに医師不足の状況にありました。その後の避難民の大量流入によって、一層の医師不足、人手不足が深刻となっております。医師が疲弊せず、個々の医療機関の能力を最大限に発揮させるためには、医療連携システムの積極的利用が必要不可欠と思われれます。

かかりつけ医からの紹介状によって医療情報の共有化が得られれば、多職種間でのチーム医療の円滑な推進にも役立ちます。病診連携による地域内完結型医療をめざすわけですが、疾患の状況によっては、いわき市内で達成できない場合もあります。医療連携システムは首都圏を含めた日本全国で運用されておりますので、ご安心下さい。

最終的に患者さん自身が納得のゆく、満足できる医療を受けていただくために、当院の医療連携室が十分に機能し、お役に立てることを願っております。

在宅支援に向けて



A3F 病棟師長
門脇 サナイ

多職種協働で 退院支援

現在、急性期の内科病棟には、高齢の患者さまが多く入院されています。

病状が安定するには、数日から1週間、時にはそれを超えることもあります。高齢者が数日間ベッド上で生活されると、身体的に機能低下が起きます。筋力

低下予防としてベッドサイドでのリハビリ訓練や、特に生命維持に欠かせない「食する」という機能低下が一番の問題点になります。食欲低下、嚥下障害などの患者さまへ、摂食機能訓練を導入しています。

入院時より、退院スクリーニング用紙に基づいた情報を、ソーシャルワーカーの方へ伝達しています。スクリーニングをアセスメントし、社会福祉制度の介入が必要な患者さまについては、カンファレンスを行います。

医師より診療情報を収集し、受け持ち看護師により現在の状況から、退院に向けての今後の方向性をソーシャルワーカー、理学療法士、医事課、栄養科等、他部門の方々と話し合い、看護計画を立案しています。

自部署でも退院支援リンクナースより、各スタッフから医療福祉制度について説明ができるよう、理解を深めるため勉強会を開催し、ソーシャルワーカーの方からも勉強会をしていただいています。

今後も近隣の医療機関、保健施設、訪問看護、居宅支援事業所等の方々と連携を図りつつ、個々に適した患者さまへの在宅支援に取り組んでいきます。

合同研修会および連携のつどい

「第7回在宅医療・在宅緩和医療合同研修会および連携のつどい」の報告

平成25年11月15日（金）、勿来市民会館に地域の多職種総勢88人が集い、講演とグループワークの2部構成で行われました。メインテーマは、「地域資源について」とし、「在宅医療の果たすべき役割」と題して当副院長・緑川医師の講演をはじめ、勿来・田人地区保健福祉センター保健福祉係・石井氏、いわき市社会福祉協議会・菅本氏、勿来・田人地域包括支援センター・小岩氏の4人の方々の講演がありました。



グループワークでは事例をもとに、ポスターセッションが行われ、活発な意見交換が繰り返し広げられ、交流を深めることができました。



「第8回在宅医療・在宅緩和医療合同研修会および連携のつどい」のお知らせ

日時：5月22日（木）18:45～

場所：勿来市民会館

内容：在宅医療についての講演会・他
詳しくは下記へお問い合わせ下さい。

■ 勿来包括支援センター / TEL. 0246-63-2140

■ 当院地域連携支援室 / TEL. 0246-62-3178

トピックス

新 MRI 装置 運転開始のお知らせ

4月1日より、新MRI装置での撮影を開始しました。2月6日の工事開始より約2カ月間、近隣医療機関の皆様、患者様にはご迷惑をお掛けしました。新しいMRIは撮影時の騒音を低く抑える機能や、撮影スペースが広がっているなど、患者様に優しい装置となっておりますので安心してご利用下さい。

呉羽総合病院 放射線科



新しいMRI装置での撮影が始まりました

●常磐医学会「部門賞」受賞

●「くれは保育園すまいる」ご紹介

昨年末に完成したログハウスの園舎です。子育てをしている職員が安心して働ける環境が整いました。現在7人の子どもたちが通園しています。

病院勤務は多忙を極めておりますが、散歩している子どもたちを見かけると、心が和みます。



常磐医学会で部門賞を受賞した白土さん(右)

現在、国は地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築を推進しています。当科としても、地域リハビリの充実是最優先課題の一つであると考えていたことから、昨年初めて転倒・骨折予防教室へ参入し、様々な体験や今後の糧を得ることができました。

今回、常磐医学会に参加し、発表する機会を頂きましたので、この転倒・骨折予防教室での経験を報告してきました。リハビリ科職員の他、多くの方のご支援を頂き、自分の思いを発表用資料として整理したことで、今後の方向性を明確にできた上に、「部門賞」まで頂き、非常に有意義な取り組みとなりました。

今回の経験を生かし、これからも日々努力していきたいと思っております。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

リハビリテーション科 白土 貴紀

●新任医師紹介



外科
鈴木野 聖子

初めまして。4月1日よりお世話になっております外科の鈴木野と申します。まだ、経験が浅く、慣れないことも多いですが、患者さんの力になれるよう、一所懸命頑張ります。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。



乳腺専門外来
野水 整

昨年11月より、乳腺専門外来を担当しております野水と申します。

いわき市の乳がん検診・診療に少しでもお役に立てれば幸いです。

